



県民行進スタート

福岡県春闘共闘、社会党、共産党の三者が手をきいて取り組んでいる雇用確保、有事立法反対の闘いは、盛り込み、県民大行進開始でスタート。あと行動は、福岡で開かれる五万人大集会へと引き継がれていくが、前記三者は今後いっそう結合を強め、闘いをさらに発展させていく。

### 統一行動がスタート

#### 雇用確保、有事立法で

福岡県春闘共闘、社会党、共産党の三者が手をきいて取り組んでいる雇用確保、有事立法反対の闘いは、盛り込み、県民大行進開始でスタート。あと行動は、福岡で開かれる五万人大集会へと引き継がれていくが、前記三者は今後いっそう結合を強め、闘いをさらに発展させていく。

うち一カ所が大牟田市役所前での座りこみで、述べた通りなく、「首切りと倒産の風が吹き荒れ、黙って耐えることのできないう現況を広く世間に訴えるため、行動には各組合から参加した。

二十四日朝、大牟田市役所前組合からの参加者を中心に編成された「失業反対、雇用確保、有事立法反対、県民大行進」出発。この日、県下各地からスタートした行進団とともに、つきつきに引き継がれながら、福岡をめぐります。

大牟田からの行進団を中心にスタート前に決起集会が催された。あいまの間に立つた意

### むつ入港阻止闘争参加の記

自民政府は、まき起つたはげしい反対の世論を踏みにじり、原子力船「むつ」の佐世保入港を強行しました。次は、三川指導部の芳川勝さんと共に三池労組を代表、阻止闘争に参加した宮崎さんの手記です。

欠陥原子力船「むつ」の佐世保入港は、SSK(佐世保重工)の雇用関係と佐世保市が不況から脱出するためにせむ必要などがあるという、まやかしの宣伝で強行されたものであります。

SSKではすでに、三分の一に及ぶ労働者が首を切られ、賃金も三分の一の減収になり、労働条件はひき下げられ、すでに二人の労働者(一名は係長)が自殺に追い込まれている状態です。

このような情勢の中で、われわれ常駐オルグをはじめ、被爆県民や多くの仲間が団結し、「むつ」入港阻止闘争を取り組んできました。

が、国家権力側は、佐世保に四千名以上の警察機動隊を動員し、また、「むつ」のまわりには二十数隻の護衛船を配置するなど、まさに異状とさえいえるものでした。

誰がたくらんだか  
かくれた根源への深い認識を

四山指導部 宮崎 勝

「一時不幸な出来ごと」は許されずわだつみの声永久(とわ)に残りて

「有事立法」たがためにくわだてたものか世界もまた人類もみな一つなるに

原爆碑平和の像を指差す彼方深くは原子力船「むつ」の黒き姿

退職記念旅行に参加した皆さん、月二十八日大阪南港へ入港。バスの顔には、悪い三井資本と闘って、あらゆる差別・弾圧、そして、勝訴にうち勝つて退職の日を迎え、旅行に参加できたのだ、という満足をあらわしていました。

京都のホテルでは宴会が開かれ、四山出身の宮崎さん、立山さん、木村さん、近藤さん達も、大坂からわざわざきてくれました。

三十日は京都の平安神宮、南禅寺、清水寺を拝観し、大阪に向かう途中、PLP会館で関西不知火会主催の交流会が開かれ、困難を乗り越えてきた皆さん、本紙前号に伝えた対策だったのですね。(最後回答は省略)ひとまず要結した。

以上の結果は決して満足できるものでないことはもちろんだが、それでも三池労組やCO患者、その家族ほか、大災害裁判原告団の力、さらに炭労やその政治局のバックアップのあったことが痛感されている。

ただ、右の決定によって患者の症状が好転することもなく、それどころか患者家族はいっそう深刻な状態を余儀なくされることはいはむしろこれからだといわなければならぬ。

最後に、東東・関西の不知火会の今後の発展をお祈りして報告を終わります。

おわび

本号には、ほかにもたくさんのご投稿があり、また準備した記事もありましたが、記事が殺倒したため、残念ながらたくさん積み残しとなりました。次号からご紹介いたします。あしからず。

—編集部

### CO要求めぐる労働省交渉

九・二八坑内火災被災者を中心とするCO患者の労務補償と障害等級決定をめぐる、三池労組の対労働交渉は、十月十三日から開始した。

交渉に当たったのは浪田組合長ら三人で、交渉団は炭労とその政治局の阿真根参議院議員と、かねてCO患者の診療・検診を担当してきている金子副郎(東京都立松沢病院副院長)・吉田磯彦(大牟田市立松沢病院院長)の両医師との交渉。

大津炭労書記次長も加わり、原補償課長らの労働側代表と第一

回交渉だった。労働省が出してきた提案は、きびしい内容だった。(前号記事参照のこと)口実としては「今日まで治療を続けてきた結果、医師の判断として症状固定になってい」といって、

「医師の診断にもとづく」というが、診断書に記入された症状だけ

「改めて固めた決意」

三池退職者の会 宮本隆吉

退職記念旅行に参加した皆さん、月二十八日大阪南港へ入港。バスの顔には、悪い三井資本と闘って、あらゆる差別・弾圧、そして、勝訴にうち勝つて退職の日を迎え、旅行に参加できたのだ、という満足をあらわしていました。

京都のホテルでは宴会が開かれ、四山出身の宮崎さん、立山さん、木村さん、近藤さん達も、大坂からわざわざきてくれました。

三十日は京都の平安神宮、南禅寺、清水寺を拝観し、大阪に向かう途中、PLP会館で関西不知火会主催の交流会が開かれ、困難を乗り越えてきた皆さん、本紙前号に伝えた対策だったのですね。(最後回答は省略)ひとまず要結した。

以上の結果は決して満足できるものでないことはもちろんだが、それでも三池労組やCO患者、その家族ほか、大災害裁判原告団の力、さらに炭労やその政治局のバックアップのあったことが痛感されている。

ただ、右の決定によって患者の症状が好転することもなく、それどころか患者家族はいっそう深刻な状態を余儀なくされることはいはむしろこれからだといわなければならぬ。

最後に、東東・関西の不知火会の今後の発展をお祈りして報告を終わります。

患者の症状は固定労働省

池家族の実情は深刻

三池

告している。社会生活も非常に困難で、常に人にわかれぬ深刻な問題が積み重なって離れぬ。主張をくり返し、いったん交渉を中断。あと東京都立松沢病院に金子副院長をたずね、真剣に話し合ってきた。

「医師の診断にもとづく」というが、診断書に記入された症状だけ

この旅行を企画して下さった三池労組、引率の平田三川指導部長、松岡さん方に深く感謝申し上げます。本号に有難うございました。

最後に、東東・関西の不知火会の今後の発展をお祈りして報告を終わります。